

平成二十七年十一月二十七日に設立された佐用町内にある社会福祉法人のネットワークです。南光園の大塚施設長らの提案で、佐用町社会福祉協議会が事務局を引き受け、兵庫県社会福祉協議会からの補助金を原資に、佐用町における社会貢献活動に資する事業を進めることを町内十法人が参加して決めました。

総会で決定した規約では、一本会を構成する社会福祉法人相互の連携を図るとともに、社会福祉法人が持つ公共性と専門性を発揮しながら、地域福祉の推進に組織的かつ継続的に取り組むことを目的とする。」と明記しました。佐用町は小さな町にも関わらず、社会福祉法に位置づく福祉サービスの児童分野以外のすべての分野の社会資源（高齢者施設、救護施設、障がい者施設）があるという環境は、稀有なものです。このそれぞれが法人がそれぞれの地域で築いたネットワークと社会貢献を把握し、連携を進めることができれば、総合的な社会貢献活動を展開することができると考えられます。

佐用町社会福祉協議会がその要となり、地域福祉の種を撒き、育てていく展望が見えてきました。さつそく、各法人のヒアリングを行い、これからの課題を明らかにしようとしています。すでに規約で掲げた福祉人材の確保に関する取り組みでは、介護職員初任者研修を実施している法人があり、今後実務者研修の実施を目ざすこともできそうです。生活困窮を抱える町民に対する取り組みを進めている法人もあり、この

連絡協議会の活躍が期待されます。会長には、南光社会福祉事業協会の大塚晋司氏、副会長には、はなさきむらの目黒輝美、兵庫県社会福祉事業団・奥本雄美氏、佐用町社会福祉協議会・大下東一氏の三名、監事として、佐用福祉会・寺田淳一氏と博愛福祉会・山本勝也氏が選出されました。長年の念願が実現し、佐用町の社会福祉ネットワークの構築の端緒が開いたことをともに喜びたいと思います。



佐用町社会福祉法人連絡協議会 (通称=ほっとかへんネット・佐用)メンバー

「社会福祉法人の役割が果たせますように」

理事長 目黒 輝美

残寒の候、皆様風邪など召されずにお過ごしでしょうか。

世界はテロの脅威が広がり、日本においても安法案の成立により、自衛隊が戦地に派遣される危険性が増してきました。観光で外国に行くのも危険になってきた世界的不安の中で、私たちは、障がい者を生み出す最大の災厄は戦争だと思っております。そのため、福祉に関わるものとして、平和を願い、そのために行動することも必要だと思っております。

社会福祉法人も社会貢献の中心的な存在としての立ち位置を確立するよう、変革を迫られています。佐用町には豊かな社会資源である多様な福祉施設があり、そのネットワークが機能すれば豊かな福祉環境を整えることが可能です。昨年産声をあげた社会福祉法人連絡協議会の活動が重要となってきました。はなさきむらも佐用町だけではなく、西播磨地域の目を向けながら、福祉サービスを必要とされているすべての人に手を差し伸べることができるよう活動を目ざして、本年も精進いたします。

ETV特集「それはホロコーストの「リハーサルだった」 ～障害者虐殺七十年目の真実～」

日本障害者協議会の藤井克徳氏が、ドイツのナチスによる精神障がい者虐殺がドイツ精神医学精神療法学会で七十年目に明らかにされた事実を

検証するべくドイツを訪問する番組として放映されたものです。

その中でT4計画という精神病院での入院患者の集団虐殺の始まりとその終結、しかし、閉鎖されたT4の従事者が携わったユダヤ人ホロコーストの歴史が語られました。

この放送で心にとめておきたいことがあります。キリスト教の司祭が語った言葉が、T4計画の中止に役立ちました。

「非生産的な市民を殺してよいとするならば、いま弱者として標的にされている精神病患者だけでなく、非生産的な人、病人、傷病兵、仕事で体が不自由になった人すべて、老いて弱ったときの私たちがすべてを殺すことが許されるだろう。」ナチスの歴史はこの言葉通りになりました。

藤井氏自身も視覚障がい者であり、障がい者運動の推進者として述べておられます。「どんな問題にも、戦争にも、悪行にも必ず最初がある。あるいは前触れがある。その段階で気づく力が問われてくる。社会的に弱い立場、障がい者に問題があらわれやすい。これが前触れの警鐘になると捉えていくことが大事じゃないかと感じた」

ナレーターという言葉です。「命の価値を尊重しなくなると、人を殺せてしまふ。これは過去の歴史ではなく、現在にもつながっています。」今私たちがこれらの言葉を心に刻みながら、福祉に関わっていかねばと思います。

(文責 目黒輝美)

はなさきむらだより



## 新任管理者からの挨拶

### グループホームコスモス

管理者 吉井 秀美

二〇一六年一月一日付で、グループホームコスモスの管理者に就任いたしました吉井秀美です。全管理者が目ざしてきた「家庭のようにほっこり」としたグループホーム作りを引き継ぎ、精一杯努めていく所存ですので、よろしくお願いいたします。

現在グループホームは、五軒となり、男性十名、女性六名が入居され、加えて、月に六回の体験利用があり、のべ21名の利用者様の生活を十一人の世話人が支えています。利用者の皆さんは共同生活の中で、生活力をどんどん伸ばして来られ元氣いっぱいです。ぜひ遊びにおいで下さい。

自己紹介に代えてマイブームを披露します。一昨年、中尊寺に旅行し、一日で十カ所の御朱印(1枚三百円)を買い、以来収集を続けています。最近流行っているそうです。



## 相談支援事業所ふきのとう

管理者 新庄 さゆり

平成二十八年一月より異動になり、ふきのとう管理者をさせて頂いていただきます、新庄さゆりと申します。

相談支援事業所は、障がいのある方、またはご家族からお話をお聞きし、必要な情報の提供や助言を行い、自分らしく生きる生活をお手伝いします。また、そのためのサービス等利用計画を立てます。

ふきのとうの運営理念は「きく・しる・つながる・つくる」です。

平成二十五年五月に開設し、今までたくさんの方のお話をお聴きしてきました。そして、相談者の皆さんの事を知り、いろいろなサービスについて知りました。その中で、私たち相談支援専門員と相談者の方、サービス事業所、学校の先生、病院、行政の方、その他たくさんの方々とのつながりが広がってきました。

「こんなことができたらいいな。」「こんなサービスがあったらいいな。」というニーズに応えるために、いろいろな所で発信し、「つくる」につなげられるようこれからもがんばっていきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



## なのはな「クリスマス会」

『元宝塚の千城恵さん』

昨年十二月十六日久崎地区センターをお借りして、なのはなの親睦会が行われました。

なのはな利用者のご家族が、なのはな利用者に芸術を味わう機会を持たせたい、また、日ごろお世話になっているボランティアの方々・地域の皆さんと一緒に楽しんで頂きたいとの思いで開催されました。

ボランティアの方々と地域の皆さんと一緒に、『元宝塚歌劇団』の千城恵さんの素敵なダンスと歌声に魅了されました。

アンコールの歌に合わせて一人ずつ千城恵さんに花を手渡し、会場が一つになりました。地域の皆様に見守って頂きながら、ここまで歩んできたことを大変うれしく思います。これからも、どうぞよろしくお願いたします。



## 多機能型事業所すみれ

管理者 塚崎 暁則

立春とは申しませんが、まだ寒さ厳しき日が続いております。

この度一月一日付で移動となりました。すみれの事業の安定のため、職員一丸となり今後の発展に努めたいと考えております。

また、宍粟市役所、相談支援事業所等の関係機関と連携を深め、より充実した利用者様支援にも取り組み、安心した生活を送られるようになることを目指していきたいと思っております。

まだまだ、未熟な点が多々ありますが、皆様のご指導・ご支援をどうかよろしくお願ひ申し上げます。

## 住み慣れた地域ですっと暮らすために

フォーラム二〇一五

二〇一五年十二月四日、兵庫県立先端科学支援センターで「住み慣れた地域ですっと暮らすためにフォーラム二〇一五」を開催しました。社会福祉法人はなさきむらチャレンジプロジェクト、NPO法人いねいぶるのピアサポーターしずく、関西福祉大学谷川ゼミのみなさんに発表をして頂きました。

## すみれの「鹿の子御膳」が

「五つ星ひょうご」に

はなさきむらすみれで製造している「鹿の子御膳」が、兵庫県の推奨ブランドの「五つ星ひょうご」に選定されました。そごうでの展示、ひょうご特産のパッケージやホームページへの掲載など、多様な媒体で宣伝することができました。宍粟市のふるさと納税の返礼品としても好評を受けております。ごはんも他のものもすべて鹿の骨スープで作っておりますので、シカフレーバーに満ちた商品となっております。

かわいあいあなたの愛する仔の特別な日に、ぜひお試しください。



「五つ星ひょうご」に選定された「鹿の子御膳」(下)



今回は、障がいのある私たち「当事者」が中心になり、関西福祉大学の学生さんと連携しながら、生活の中でのおちよつとした知恵やアイデアを皆さんにお伝えしました。

はなさきむら作業所のメンバーは、自助具を使って仕事をやりやすくする工夫や、仕事のルールを守り作業する工夫、はなさきむらチャレンジプロジェクトのメンバーは余暇を楽しむための工夫、ペットボトルを使いやすくする車いすの工夫など、また、いねいぶるの皆さんは、生活する上での部屋の工夫や友達つきあいの工夫など、谷川ゼミのみなさんは、ネットで調べた生活の知恵などを紹介しました。

皆さんが紹介した工夫やアイデアは、生活の知恵から編み出されたものだと思います。また、学生の方々や他の施設の方とも交流ができました。



発表を行う、はなさきむらの皆さん





